

校長室だより  
NO. 29  
平成30年9月25日

# すべては光る

梅園小学校長  
たか すりょうへい  
高 須 亮 平

## 梅園小学校開校150年まであと3年

ちょうど2年前の平成28（2016）年、本校が大正5（1916）年に梅園の地に移り、校名が「梅園」と名付けられ、また梅園学区が誕生して100歳となる「梅園百歳」の記念フェスティバルを開催しました。これは、子どもたちが、梅園小学校の百歳の誕生日を祝って、学校をよりよくしていくためのプレゼントを考え、それを総合的な学習などの時間で活動（梅園百歳プロジェクト）してきました。

そのプロジェクトは、平成27年度から始まり、梅園百歳のテーマ「梅園を敬い、梅園を愛し、梅園を信じる」を決めて、マーク「百梅くんマーク」を考えバッジにしました。また、テーマソング「梅園プライド」を作詞作曲し、今も音楽集会などで歌い続けています。「梅園百景」という写真展も全校で行いカレンダーも作りました。

平成28年度には、「百梅くん饅頭」をつくったり、「百梅かるた」や「Tシャツ・タオル」も作りました。マークから考えたマスコット「ピック百梅くん」や梅料理なども考えられました。そして、運動場に大ステージを作りフェスティバルを開きました。その時の記念として建てられたのが、右のモニュメントです。このような活動を通して、子どもたちが生き生きと学び合い、自らを成長させていったところに、「梅園百歳」の活動の価値がありました。



梅園百歳モニュメント  
(裏面にはこの時の活動が刻まれています)

そして、2年がたちました。今度は、梅園小学校開校150年があと3年に近づいてきました。これは、本校開校の起源から150年ということで遡りますと、明治4（1871）年に鹿ヶ谷の御馳走屋敷跡に市学校が創設されたことにあります。鹿ヶ谷とは、現在の岡崎信用金庫資料館の南側の通りを挟んだあたりになります。住所は伝馬1丁目です。本校は、大正5年の梅園の地への移転の時に尋常科が新たに開設され、それに当時の岡崎町の高等小学校が併設されましたので、その高等小学校の歴史をさかのぼり、開設が明治4年ということです。それから数えて150年なのです。

本校のこれまでの開校記念行事については、次のような記念式典等が行われてきました。

- 昭和29（1954）年  
創立80周年記念式  
※ 校歌が制定されました。
- 昭和49（1974）年  
創立100周年記念式典  
※ 百年庭園（校訓碑）が造られました。



百年庭園(右が校訓碑)

※ 校訓が「めあてを高く できるまでやれ」と改められる。

- 平成3（1991）年 開校120周年記念式典
- 2021年 開校150年

さて、3年後の2021年の本校開校150年について、これから少しずつ準備していく予定です。現時点では、その翌年の2022年を開校150周年の年として次のような行事を行うことを考えています。

- ◇ 開校150周年記念式典の挙行
- ◇ 開校150周年記念誌の発刊
- ◇ 開校150周年記念事業の推進

2022年は、現在の2年生が6年生になります。今から4年後でそんなに遠くない未来のように思われますが、どんな世界になっているか、また2年生がどんな6年生になっているかが楽しみです。



開校100・120周年記念誌

まず、記念式典については、学校の子どもたちだけでなく、卒業生の先輩方や学区の方々も加えて行いたいと思います。150年という学校のけじめでもあり、開校の150年前を調べる活動などを通して150年の重みを感じられるとよいと思います。

記念誌は、そのような歩みをきちんと記す役割があり、後世に伝えるものでもあります。120周年記念誌にこの30年間の梅園小学校の歩みを丁寧に記載したいものです。実際の活動は、今年の夏から一部の先生たちの力で資料が整えられつつあります。できあがりを楽しみというものです。

記念事業は、特に案としては明確になっていませんが、学校・学区がともによりよくなると感じられるようなことを企画できるとよいと思います。これから3～4年間の中で、学校・学区で考え話し合い、記念事業として活動に移して行うことができればよいと思います。

例えば、最近では全国的に災害が起きています。今年は、中国地方で大雨による土砂崩れがあったり、北海道での地震などが起きていたりしています。そのようなことはこの梅園学区でも起こり得ることです。そのことなどから、この9月1日に本校の体育館で避難所体験活動がありました。本校の4年2組の子どもたちも総合的な学習で「防災」を学習していることから参加させていただきました。その中で、感じることはいかにライフラインを確保できるかということです。電気であったり、飲料水であったりです。電気と言えば「発電機」です。また、飲料水と言えば……と考えると、学校に「井戸」を掘ったらどうかという案が浮かんできました。さて、地下を掘って水が出てくるかどうかは調べてみないと分かりませんが、今の校舎を建てるとき、たくさん地下水が出たことを聞いています。そのことを考えれば、地下水が学校の地下を流れていることが予測でき、「防災井戸」として活用できそうな気がしてきます。

まだまだ推測の話を、期待を持たせるように書きましたが、これから皆さんで議論していけるとよいと思います。その時には、子どもたちも学習の一貫として加えていただければ幸いです。学校・学区がともに楽しみになり、災害に強い地区にするための開校150周年記念事業にしたいものです。